剤500mg 14日間内服し，2～3コース目はD5からC剤100mg 5日間を併用した．

【結果】（1）M剤単独（1コース目）では排卵誘発が不可能であった．（2）M剤＋C剤の併用（2～3コース目）では，インスリン抵抗性を改善し，11/13症例（85％），14/25周期（56％）に排卵を認め，1例が妊娠した．（3）卵巣過剰刺激症候群やM剤による副作用は1例もなかった．

【結論】M剤はC剤との併用により，C剤無効PCOSの排卵障害を改善するが，有効な投与法等についてさらなる検討が必要である．

19　当科における血管再生治療の現状

加藤　公則・小澤　拓也・真木山八城
西川　　尚・相澤　義房
新潟大学大学院医歯学総合研究科
循環器学分野

【目的】血行再建不可能な閉塞性動脈硬化症・ビュルガー病の8例に対し骨髄細胞移植（BMI）を施行し，効果不十分な2例，両側に病変をもつ1例対して，BMI後に末梢血単核球移植（PBCI）を追加したので，その結果を報告する．

【対象】安静時疼痛や潰瘍を有するFontaine分類Ⅲ・Ⅳ度の患者で，担癌患者ではないこと，冠動脈に有意狭窄がないことを確認している．

【結果】BMIによって，足関節上腕血圧比は0.74 ± 0.15から0.85 ± 0.15へ，組織酸素分圧（TcO_2）は26 ± 6から35 ± 5mmHgへ上昇し，全例自覚症状もしくは潰瘍の改善を得た．さらに，PBCIを追加した3例においても，BMI後に上昇したTcO_2の更なる改善を認めた．

【まとめ】BMIは，難治性下肢虚血患者に対して有効であった．また，PBCIを用いた追加治療も有効と考えられた．

Ⅱ．特　別　講　演

「糖尿病性虚血下肢への骨髄細胞移植を用いた血管再生治療」

関西医科大学第2内科　助教授
松　原　弘　明

第72回膠原病研究会

日　時　平成13年6月27日（水）
午後6時～
会　場　新潟大学医学部
有壬記念館

Ⅰ．一　般　演　題

1　ステロイド抵抗性で，約2年の経過で，中心静脈栄養，腎ろうを中止しえた難治性ループス腸炎，ループス膀胱炎の1例

佐藤　　牧・関口　珠美・神田　健史
濱　ひとみ・貝津智佳子・伊藤　由美
大渕　雄子・田辺　嘉也・伊藤　　聡
宮島　憲生*・車田　茂徳*・米山　健志*
渡辺　竜助*・小原　健司*・筒井　寿基*
波田野彰彦*・斎藤　和英*・高橋　公太*
中野　正明**・下条　文武
新潟大学大学院医歯学総合研究科
腎膠原病内科学分野（第二内科）
同　腎・泌尿器病態学分野
（泌尿器科）*
新潟大学保健学科**

症例は30歳女性．1996年下肢の皮下出血で近医を受診し，ITPと診断された．抗核抗体が陽性であった．1999年7月12日，上腹部痛，微熱，悪心・嘔吐が出現し18日，近医に入院．下痢と腹部膨満感も出現し，7月31日のCTで腹水と腸管浮